

令和4年度 第5回泉南市教育問題審議会 会議録

日 程	令和4年7月28日(木)
時 間	14時05分から15時35分まで
場 所	泉南市埋蔵文化財センター 講堂兼視聴覚室
出席委員	13名
欠席委員	5名
欠 員	2名
案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・泉南市立小中学校再編計画<複数案>に対するアンケート結果について ・泉南市立小中学校再編計画<案>(A案、A2案、新B案)について ・その他
事務局出席者	教育長 教育部長 教育部次長 教育部参事兼教育総務課長 指導課長 人権国際教育課長 教育総務課課長代理 教育総務課総務係長

14時05分開会

○**会長** 今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今から令和4年度第5回泉南市教育問題審議会を開催したいと思えます。

なお本日の会議は、P委員、D委員、U委員、L委員、I委員から所用により欠席という御報告をいただいておりますが、委員の総数が20名に対して、欠員を含めて欠席者7名、13名の方の参加ということになっております。13名の出席ですので、泉南市教育問題審議会条例施行規則第2条第2項に定める要件である委員の過半数の出席を満たしていることとなりますので、今日の審議会は有効に成立していることを御報告いたします。

なお、本日傍聴希望されている方が3名いらっしゃいます。傍聴希望者に入室していただいても構わないでしょうか。

では皆さん、御異存ないということですので入室していただきたいと思えます。お願いします。

次に、委員の交代等について事務局から報告があるのでお願いします。

○**教育部参事兼教育総務課長** それでは御報告いたします。今回、新たに本審議会の委員に交代がありました。信達中学校区の保護者代表が交代しておりますので御報告いたします。また、令和4年7月1日付の人事異動により、理事兼福祉保健部長が理事兼総務部長となりました。教育問題審議会委員に就任いただく職員については、副市長、理事、総合政策部長及び総務部長であります。今回、理事職の職員が総務部長職を兼務する形になりましたので、委員の人数がこれまでの21名から20名となりましたので御報告いたします。

なお、令和4年4月1日から不在となっておりました副市長におきましても、令和4年第2回泉南市議会定例会において選任同意され、令和4年8月1日から就任することが決まりましたので、次回の審議会から御出席いただくこととなりますので併せて御報告いたします。

最後に、今後の教育問題審議会の日程なのですが、次回第6回審議会は、令和4年8月23日火曜日午後2時から、第7回審議会は9月が飛びまして、令和4年10月6日木曜日午前10時から、第8回審議会は予定としては最終の審議会になります、令和4年11月4日金曜日午前9時半から、いずれについても場所はここの泉南市埋蔵文化財センター、講堂兼視聴覚室で開催したいと考えております。

以上、御報告いたします。ありがとうございました。

○**会長** どうもありがとうございました。次に、今日の会議の配付資料の確認をお願いいたします。

まず会議次第が1枚、再編計画複数案についてのアンケートの結果、市民・保護者向けが1つ目、教職員向けが2つ目、児童生徒向けのアンケートの集計結果、3種類あります。次に、複数案について説明をしたA3の大きさに印刷してあるものが2枚あります。これは以前、冊子で委員の皆さんに配付したもののからの抜粋です。それから、小中学校再編計画の校区マップ、地図が1枚。それから、前回、和泉市の義務教育学校の視察をいたしました、そのときに出した質問事項及びそれに対する和泉市からの回答をまとめたものが1つあります。最後に、A4一枚物で再編計画複数案のメリット、デメリット、対応策・解決策の付箋への記入についてという事務局で作っていただいた、今日の議論を進めるに当

たつての説明書きがあります。

配付資料は以上です。皆さん、不足はないでしょうか。はい、大丈夫ですね。

早速議事に入ります。議事の進行に当たりましては、会議の時間を2時間をめどに進めていきます。もしかすると2時間では収まらない部分もあるかもしれませんが、これに関してはできるだけ2時間に収めたいです。どうしてもそれが無理であれば次回に持ち越しというふうに考えています。

では、まず案件の1つ目、「泉南市立小中学校再編計画複数案に対するアンケート結果について」です。さっき御説明しました配付資料の市民・保護者向け、教職員向け、児童生徒向けのアンケート結果について、教育委員会事務局から内容を御説明いただきたいと思います。

では、お願いします。

○教育部参事兼教育教務課長 それでは、私からアンケートについて御説明させていただきます。

まず、児童生徒向けのアンケートから説明させていただきます。今回のアンケートにつきましては、1,174件の回答をいただいております。そのうち小学5年生・6年生が709人、中学1年生・2年生・3年生が465人、合わせて1,174件の回答を得ております。

次にB1の質問として、あなたが通う学校が新しい1つの学校になることについてどう思うかということですが、とてもよい・どちらかと言えばよい、合わせて50.6%。対して30%が悪いと感じているようです。

○会長 今説明していただいているのは児童生徒向けの集計の結果ですね。

○教育部参事兼教育総務課長 児童生徒向けをまず説明させていただきます。

次に4ページのB2の質問では、とてもよい・どちらかと言えばよいと回答した人は、なぜそう思いましたかとの回答は自由回答となっております。その中で、よいと選んだ人の理由としては、クラス替えがあるので友達が増える、新しい人と出会うことができるなど、友人関係の交流について肯定的な意見が多かったようです。

次の5ページでは、悪いとお答えいただいた方の自由回答では、児童生徒が多いので混乱する、知らない人が増える、クラス替えがあるので仲よくなるのに時間がかかると、やはり交友関係に関する不安から悪いと感じているようです。また、学校への通学距離が長くなるや、母校が壊れるのは寂しいといった回答もいただいております。

次に7ページに飛びまして、新しい学校はいろいろな施設も隣に造られ、地域の人々も集い、行き交うようになります。他の施設がひとつになり、地域の人々が集まることについてどう思いますかという質問に関しては、よいと答えた児童生徒が約70%いまして、どういった施設があればよいと思うかの質問には、図書館やスポーツができる場所や公園、中にはコンビニエンスストアなども挙げられています。

9ページの複合化によって何がよいと思うのかの質問では、施設が近くて便利になる、学校と地域が元気になる、学校のいじめや問題行動が減るなどといった回答もありました。

一方で、10ページの悪いと思った理由では、知らない人、多くの人がいるので集中できない、不安といった回答の次に、ここでも学校のいじめや問題行動が、今度は増えるといった回答がありました。いじめの問題については、児童生徒数の多い・少ない、小規模校・

大規模校にかかわらず起きてしまう可能性とかが子どもたちの不安の中にはあるのかなと感じます。

続きまして市民・保護者向けと教職員向け、同じような質問がありますので併せて説明させていただきます。

まずA1でいきますと、お住まいの小校区はどこですかということですが、先ほどの子どものアンケートでも一緒だったのですけれども、信達小校区、砂川小校区、樽井小校区の保護者からの回答が多かったようです。

2ページのA2の年代の質問には30代・40代がやはり多くて、次のA3の回答を見ても分かりますように、現在子育てをされている親御さんと思われる方からの回答が多いようです。

次に、4ページのQ2なのですが、近い将来、市全体の1学年の児童数は400人弱となり、さらに人数減少が進む見込みです。市で現在、学校の再編計画を検討していることについて、どのようにお考えですかというところで、保護者・市民・教職員とも「理解できる」という回答に高い数値をいただいております。また統合再編で気になるところは何かの質問につきましては、保護者・市民・教職員とも、学校再編の場所や通学路の安全性、通学手段、通学時間といったところが気になるということです。

今後の新たな機能については、市民・保護者からは全ての教室にエアコンの設置、避難場所となる場所にエアコンの設置、非常用発電装置の機能が必要と、教職員につきましては同じく1番は、全ての教室にエアコン、次にICTを活用した最新の学習環境、豊かな蔵書のある図書館と回答をいただいております。地域に住む住民は、防災面での機能充実を考えており、先生方については、子どもの教育を重視した機能面の充実を希望しているようです。

次に、7ページのQ5では、どのような施設、機能を複合していくべきだと思いますかという質問ですが、ここにつきましても市民・保護者・教職員とも防災面の充実を重視しているようです。防災面を備えた防災拠点施設との複合化というものが1番に挙がっており、次いでどちらも子どもたちが遊べる場所、あと留守家庭児童会との複合化をすべきとの回答をいただいております。

8ページ、Q6ですが、今後、新たな学校を検討していくにあたり、どのような学校教育の充実を期待するか、お聞かせくださいという質問につきましては、市民・保護者・教職員どちらも、外国語の充実やICT教育の充実を挙げられております。また、人権教育の充実も同じように挙げられています。

次に、市民・保護者はなくて教職員のみへの質問ですが、小規模校についてアンケートをしております。教職員向けの10ページ、T4を御覧ください。小規模校勤務で感じた又は勤務した場合感じるであろう、小規模校ゆえのメリットとデメリットを御教示くださいという質問ですが、その中でメリット・デメリットがありまして、メリットよりもデメリットの回答の方が少し多かったということで、児童生徒の人間関係やつながり、教職員業務といったところで、小規模校に関してはデメリットとかなり感じているようです。

11ページのT5-1の学校再編の必要性については、学校再編は必要だというのが約半分、5割近くの先生方から必要だと回答をいただいております。T5-2で、なぜ学校再

編が必要なのかということでは、児童生徒数やクラス数、児童生徒の人間関係、つながりなどが挙げられております。

ここからは具体的な再編計画案についてのアンケートになるのですが、K1に移ります。市民・保護者向けの10ページ、市民・保護者、教職員からA案、A2案、新B案の全ての案で理解をいただいております。その中で最もよいと思われる案としては、市民・保護者からはA案が41.3%で一番多く、次にA2案が20.6%、新B案が12.92%となっております。教職員からは、最も多いのがA案の51.51%、A2案が18.79%、新B案が12.12%と、市民・保護者、教職員の皆様からのアンケート結果については、A案、A2案、新B案、同じ順位となっております。その理由として市民・保護者からは、学校配置計画期間、通学の安全と安心などが挙げられており、教職員からは、4中学校が存続するので現実的で無難、計画期間がちょうどいいという形で回答していただいております。

K6の意見や提案として、市民や保護者からは、通学の安全と安心やまちづくり、教育環境などが挙げられております。教職員からも同じく、通学の安全・安心、教育の課題や老朽化対策などの意見がありました。40年という長期計画の中で、新しく建てた学校についても老朽化していくので、そこら辺については教育委員会としてしっかり対策をしていかなければならないのかなと感じております。

以上、駆け足でございましたが、アンケートについての説明を終わらせていただきます。

○会長 どうもありがとうございました。今の説明について、皆さん方から何か御質問等ありますでしょうか。

参考までに回収率を教えてくださいませんか。住民、それから保護者については、母集団が想定しづらいと思うのですが、児童生徒向けと教職員向けは回収率がはっきりと出ると思うので、そこだけでもお願いします。

○教育部参事兼教育総務課長 児童生徒向けが小学校5年生・6年生、中学1年生から3年生を合わせて2,675人なのですが、そのうちの1,174人から回答をいただいておりますので43%の回収率となっております。教職員向けにつきましては、教職員の数が私は把握しておりませんので、アンケートの回答数としては165件と集計されております。

○会長 児童生徒向けは4割程度ということで回収率が分かったのですが、教職員向けの回収率もやはり把握しておかないと、あまり少ないとこの意見は当てにならないみたいな話になるし、今すぐには分からなくてもまた次回教えてください。

○教育部参事兼教育総務課長 ただいま調べたところ、教職員が434名、教職員向けにつきましては38%の回収率となっております。

○会長 ありがとうございます。どちらもおよそ4割ぐらいということですね。この手の任意のアンケートですと、回収率としてはこれぐらいのところかなという感じはいたしますので、とても回収率が悪いというわけでもないと思います。ありがとうございます。

皆さん方から何か御質問等がありますでしょうか。もし、特になければ次に進めさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

はい、それではこのアンケートに関しては、この後の議論の参考にさせていただきたいと思います。

次に2番目の案件、小中学校再編計画案、これは今3つ、A案、A2案、新B案とあり

ます。これを議題とさせていただきます。

先日文書でも御依頼いたしましたけれども、今後の泉南市教育問題審議会の進め方については、今日を含めてあと4回ほどあります。各案のメリット・デメリット、またはデメリットにどう対応するか、解決策を考えるか、今後40年間にわたる本計画の見直しに関する事項について御協議いただいた上で最終的に泉南市教育問題審議会として答申をまとめるということを予定しています。

また協議していただくにあたって、先ほど確認していただきました小中学校再編計画の校区マップ及び義務教育学校視察に係る質問事項及び回答、これは前回、和泉市に行って話を聞いてきた分を配付しています。そして、再編計画案、A案、A2案、新B案を協議・検討する際にこれらの資料を参考にさせていただきたいと思います。

今日は具体的な検討に入るわけですが、各3つの案のメリット・デメリット、解決策・対応策について協議していただきますが、いろんな論点があると思いますので協議の仕方を事務局と相談しまして、工夫をしてみようということにしました。進め方について具体的にどうするかということを事務局から説明をしていただけますか。

○**教育部参事兼教育総務課長** 皆様のお手元に付箋を数枚ずつ置いているかと思います。薄い黄色と水色と緑とあると思います。薄い黄色につきましては、メリットを書き込んでいただきたいです。水色につきましては、デメリット。緑につきましては、そのデメリットに対する対応策とか解決策を書いていただきたいです。1枚につきそれぞれ1つ、メリットは1つ、デメリットも1つですし、そのデメリットに対する対応策についても1つという形でお願いしたいです。必ず付箋の右上、のりづけの部分が上と考えていただいて、右上にA案に対するメリットなのか、A2案に対するメリットなのか、新B案に対するメリットなのかと分かるようにA案、A2案、新B案という形で書いていただければ、また新B案というのはBだけでも全然構わないので、そういった形で書いていただいて、後に皆様と協議を進めたいと思っております。

以上です。

○**会長** 僕から補足させていただきます。今この付箋に皆さん方の御意見を書いていただくようお願いしましたが、この付箋は後で回収をさせていただきます。皆さん方に一通り大体御意見を書いていただいたら、その後でそれぞれの委員からどのような御意見だったかということを1人1人に説明をしていただきたいと考えています。

それも合っていますね。

○**教育部参事兼教育総務課長** はい。

○**会長** ということなので、今から少し時間を取ります。取りあえず今から、後ろの時計で40分まで時間を取りますので、その間にこの付箋に御記入願います。様子を見てもう少し時間が必要であれば、少し時間を延ばします。あの時計で45分までにします。

○**教育部参事兼教育総務課長** 付箋が足らなくなれば教えていただければまたお持ちいたします。

【各委員意見等を付箋に記入】

○会長 よろしいですか。どうもありがとうございます。

それでは、最初に申し上げましたように各委員から、今付箋に書いていただいた内容についてかいつまんで御説明をお願いしたいと思います。A委員から時計回りの順番でお願いできますでしょうか。

○A委員 1つずつですか。

○会長 付箋1枚ずつだと時間がかかりますので、この3つの案の比較をしたときに、これは決定ではないのですが、御自身としてはどの案がよいとお考えかということを含めてお話いただければ。そのときにただ解決すべき問題、懸念すべき問題もおありと思いますので、それについてもお話いただければと思います。

○A委員 分かりました。皆さんの意見の中で、A案が一番たくさんいいかなという意見が出ていたとは思いますが。私もできるだけ4中学校区、中学校4つを残せたらいいのではないかなというのが、どうしてもJRより上に公立がなくなるということは私自身が信達中学校を卒業していることもあって、遠くなる子どもたちもたくさんいるのではないかと、ということが保護者の方のアンケートでも通学時間と安全性みたいなことをすごく気にされている意見などもあったので、A2案かなというふうに思います。

A案という意見がそうなのかなというのは私も思っているのですが、砂川小学校区の子どもたちが一丘中学校のところにと、かなり通学距離が広がるのではないかと、ということもすごく懸念しているところがあるので、やはりスクールバス等は必要になるのではないかと、新家の方とかの山の子どもたちもやはり下りてくるのには時間がかかるかなと思います。

ただ公立幼稚園も10年前に9園から2園に統廃合をして、やっぱりどうしても、今ウエストとイーストと言ったらいのか、和歌山側と大阪側で分けているときに、市内の中心部はまだ子どもたちが200名程度残っているのですが、一丘の方の幼稚園については半数、150名いたのが80名ぐらいに減ってきていて、将来的に西信達中学校区も1つになって教育は進めやすいとは感じているのですが、子どもたちの減少が来たときにバランスというものが、私の中には一番引っかかってくるのです。今一緒になって大きくなるのですが、徐々に出生率が下がってきたときに、少し人数のバランスとかも視野に入れていく方がいいのかなと感じたところです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

次、お願いできますでしょうか。

○R委員 私が気になったのが、A案、A2案、新B案ということで、学校数です。A案とA2案が4校、新B案が3校ということで、共通の部分で、今現在で40年先の部分の学校数というのを決めるというのがすごく大きな命題で、大変重い部分かと思っていまして、学校数というのを今の児童生徒数の推計で行くと、そもそも4校がいいのか3校がいいのかというところがまだはっきり私でも分からない部分があるのと、40年を見るのでやはり人口に伴って当然児童生徒数も変わりますので、それをどこかの時点で見直しというのが必要ではないかと考えているので、4校と3校の基準というか、児童生徒数からするとどうであるかという議論というか、その辺のお示しがあった方がいいのかと思いました。

私はA案とA2案と新B案という与えられている3つの中でいくとA2案がいいのではないかと考えています。A2案であれば新B案に、この流れでいくと途中で移行できるというか、4校から3校へでも途中で大きなところで変えられるという部分があるので。

A案というのは確かにいいのですが、今の案で行くと4校から次の3校に行くというのが見えないというか、どういうふうなことが出てくるか分からないので、今与えられている3つの案で行くと、柔軟性というか学校数の適正な数というところの判断を経過の中で変えていけるのではないかとというところで、A2案がいいのかなと今現在は考えています。

あと、デメリットとしてはアンケートにあったように、やっぱり通学路がどうなるかというところ、これは全部共通になるかと思うのですが、これをいかにしっかりと確保するかというのが、前回、西信達小中学校を拝見させていただいたら、地域の方がいろいろと見守り等していただいているということがあるので、その辺が一つの鍵になるのではないかと考えております。

以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。この3つの案の中では、最終的に中学校を4校にするか3校にするかという点では、A案・A2案と新B案で大きな違いになります。その辺はどちらがという判断をしかねるというお話だったと思いますが、A2案ですと途中で新B案への移行も考えやすいただろうという御意見だったと思います。

では続きまして、よろしくお願ひします。

○N委員 私は主人とこの案を見させてもらって、A案、A2案、新B案というのを話し合ったのですが、私も主人も保護者としてはA案がいいかなと考えています。今の校区をそのままほぼ存続できるし、4校から3校になるとやっぱり通学路も変わりますし、道路の安全面とかもあるかと思うのですが、小学校低学年の子たちが遠くなるとやはり長い距離を歩かせたりするのがどうなのかと、そんな子たちが自転車に乗るわけにもいかないですし、その辺が余計に危ないのではないかとしたりもするので、今の校区内だとまだほぼほぼ。

もしそれだったらバスの範囲を増やしてもらおうとかをしないと、低学年では難しいのではないかと考えています。小さい子がそこまで歩けるのかというのがあるので、やはりバスが必要であるのかなと私は思います。バスの範囲が今よりかは増えたらいいなと。新B案はどうかなと思うのですが、3校になるのは、もっと山の方は校区も広いですし、結構範囲が広いので、やっぱりJRから山側というのは、それは思います。

○会長 よろしいですか。どうもありがとうございました。

お願ひいたします。

○Q委員 ちょっと付箋には書いてないのですが、僕も仕事でバタバタしていて今日ばつと出させてもらったのですが、この3つの案なのですが、正直に言って小中一貫教育にはいいと思います。うちは西信達中学校区なのですが、デメリットといたら今は子どもの数は多いのですが、今後、西信達中学校区だけだったら少ないかなと思うのですが。

あとはやはり西信達中学校区だと近いのですが、ほかの校区の方だったら児童及び生徒

の通学距離が遠くなったりするのがあると思います。年々交通量も多くなってきていますから。

今ちょっと見てそういう感じなのですが、あとはこういう案で大体僕の言いたいことはこんなものかと思います、簡単ですけど。

○会長 どうもありがとうございます。通学路距離とか安全性に関しては、今までの3名の委員からも懸念があったかと思いますが。あと西信達校区に関しては、3案とも小中一貫を一小一中で造るということになってはいますが、これに関しても将来的に児童生徒数がどうなるかということです。これも考えないといけないという意見であったかと思いますが。

次、よろしく願いいたします。

○M委員 よろしく願いいたします。何点かあります。

まず先ほども言われましたけども、西信達中学校区の児童生徒数、これからの変化を見て、前にこの表をいただきました、40年後にはこのまま推移するとは思いませんが、40年後には小学校6クラス、中学校3クラスという形になっています。地域的にはほかの地域と比べて、小中一貫校はある意味で義務教育学校というのは、9学年で1年から9年までずっと同じ子どもたちが行くわけですので、できれば今の東小学校のように、西信達義務教育学校が将来的にはいわゆる特認校みたいに、泉南市内であればどこからでも通学できるような特徴のある教育を目指してやっていただきたいとも思いますし、またそれはそれで地域の子どもたちもすごく素直に育っていらっしゃいますので、そこは伸ばして行ってあげたいと思います。

ただ地域ですっとこのままと固執してしまうのはいかなものかと、児童生徒数も減ってきますし、ある意味ほかの子はどんどんマンモス校まではいかないけど、児童生徒数が増えて学級も増えてやっている。西信達中学校区はずっとだんだん少なくなっていく、教育環境が西信達中学校区とほかは全然違ってくるというのはいかなものかだと思いますので、ある意味特認校的な扱いになればいいかなと思いました。

学校の先生も、地域の方もA案が1番いいという意見が多いですね。私も最初はそう思っていたのですが、学校というのは今現在のことで考えると、これは最終的に全部整うのが40年後なんですよ。そうしたら少なくとも信達小学校を新築するというのが新B案でもA2案でもありますが、それであっても15年先なんですよ。今生まれた子どもたちも中学を卒業している、学校再編というのは早い時期で、でもこういうふうにして分からないけれども、早い時期で計画をきちんと示すことは市にとって大事なことだと思います。

というのは、これから結婚をして子どもを産んで、どこに家を構えようかというときに、途中で合併とかいろいろあるかも分かりませんが、一応泉南市としてはこれでいきますよというものの絵面を示してあげると、市民はこれから結婚をして子どもを産んで育てようとする人が、ここはあまりにも遠くなるからここにしようかなと、家を買うにしても住むにしても、そういう意味では計画としては早く選んでどれかに決めてあげたら市民の方はそれに応じて自分の住まいも子育ても考える環境が整うかだと思いますので、これは大事なことだと思います。

A案というのは1番地域のコミュニティがそのまま存続するのでいいと、それは今の現

状での話ですよね、20年後、40年後どうなのかということ、新しい地域ができて新しい学校ができて新しい校区ができれば、また新しい地域コミュニティもそこでできるし、廃校の跡地に対しても、それをどういうふうに使っていくかによってまたそこでコミュニティもできるし、そういうことも全部含めて学校再編というのは、これから考えていっていただきたいと思います。

新B案に関しては、1つ気になるのは、同一中学校区で1つは泉南中学校に併設している運動場の中に造るのですが、一体校があります。信達小学校も新築して第二阪和国道をまたいで造ります。小学校は子どもが第二阪和国道を越えて通学するのは厳しいので、小学校の間はこちらの小学校とこちらの小学校とそれぞれに通わせて、中学校になると自転車通学もできるので、第二阪和国道を越えて泉南中学校にやって来ると。

人口的なバランスを考えてこのグラフを見ますと、将来的には信達中学校区も少なくなつて、西信達中学校区に近いようになってくるのではないかと、あまり変わらないような状況になってくるのではないかと考えますと、将来的に私は3中学校になって、けど小学校の間は信達小学校を残して、中学校になって大きくなったら泉南中学校に合同すると、バランス的にも立地のバランスもいいのかなど。

そうせざるを得ないような人口減少になっていくのであれば、私的にはもともと泉南市がいろんな面で子育てにももっと力を入れて、もっと人口も増えて子育て人口も増えてほしいと思うのですが、今のグラフ、見せていただいた表ではいかんせんそうにはならないような状況ですので、それはそれで受け止めて考えていかないといけないと思いました。

A2案に関して1つ懸念されるのは、再編計画全体にあまりにも時間がかかり過ぎるのではないかと、新築するのに80年がめんどおっしゃいます。その間に部分改修したり、全面改修したり、また大規模改築をしたりとかをされますが、そこまで引っ張ってどうかと思いますので、A2案はどうかと私的には思います。

以上です。

○**会長** どうもありがとうございました。小規模特認校の制度に関しては、再編案と連動して考える必要があるかと思いますが、泉南市でも東小学校という前例がありますし、小規模校の充実・活性化ということでは、選択肢の1つとしてはあるのではないかと私も思いました。

次、よろしくをお願いします。

○**K委員** よろしくをお願いします。Kです。西信達中学校は今年65年目で、やはり会長にも見ていただきましたけれども、実際に生活していて、校舎は亀裂も入っているような状況です。先日の和歌山の地震のときもやはり校舎が揺れまして、クラブの生徒も避難させるような、山の方の学校に聞いたら、それほどはということで、昨年も2月ぐらいいにあったと思うのですが、そのときも全校生徒をグラウンドに避難させました。やはり中学校の校長として子どもたちの命を預かっていますので、校舎が1番だなという観点から意見を言わせていただきます。

A案で、泉南小学校の新築がⅡ期目で完了できるというところで、雄信小学校、樽井小学校の経過年数が、A案だったら70年でクリアできるなというところを見せていただきまして、雄信小学校、樽井小学校もかなり経過年数がたっていますので、そういう観点でA

案がいいのかなということを考えたり、あと改修期間が比較的短いのがA案で、令和28年までで、A2案だったら令和37年や、新B案であっても令和28年、29年が3校ほどありますので、やはり耐震がどこまで通用するような、今の状況の校舎なのかなと考えたら、やはりA案の方がスムーズに工事も進んでいくのかなと感じました。

あと本校の西信達中学校なんですけども、またIV期になりましたら改修時期が入ってきまして、A案だったらそのときは1校のみの新築なのですが、A2案、新B案を見たら、2校を同時に改修と新築が行われていると感じましたので、工事がA2案、新B案だったら重なっていくのかなということも感じました。

新B案なんですけれども、先ほどM委員がおっしゃられていたように、分離型と一体型の小学校があつたら、受入れの中学校として入学時にすごくバランスが取りづらいのかというのを感じます。一緒の敷地内で過ごしていた小学生、中学生とまた違うところから入学してくる子どもたちと、まさしく中1ギャップというのはそこで差が余計に広がらないかなという懸念が感じられるのと、新B案で、信達小学校に通う子どもたちが令和29・30年頃になったら、中学校ではきょうだいで違う中学校に通う可能性が出てくるのではないのかなというところで、その辺に課題を感じました。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。地震のときに揺れが激しかったのですか。

○K委員 去年は揺れまして、校舎に入って、ゴーっという音が聞こえてきまして、泣き出した生徒もいました。グラウンドで20分ぐらい待機させて校舎に戻しました。

○会長 どうもありがとうございました。

引き続きお願いします。

○J委員

どの案がということではなくて、例えば全体的な視点で見たときにメリットというのは、A案もA2案も新B案も含めて、全体的には財政的コストが将来的にわたって効果があるということは全てにおいて言えるのかなと思います。同時に全ての小中学校を一体的に建て替えますので、新しい校舎と充実した教育環境で学習ができるというメリットはあるのかなと思います。

将来的には3つの案を見ても、4つないし最終的に3つの小中一体型の学校になるのですけども、やはりもともとこの案のスタートというのが、泉南中学校がもう既に新築で建て替えられておりますので、そこがまずは触れないという状況の中でこの案が組み立てられていますので、全体的に配置のバランスも含めて入り口の段階で無理が生じているというのはもう否めないというのが、泉南中学校もひっくるめて建替え、どこに配置するかという議論ができるのでしたら、もっとバランスのいいやり方もできたのでしょうか、それがかなり議論のスタートの段階で無理が出てきているのかなと思います。

やはりメリットよりもどちらかと言えばデメリットというか考えなければいけない課題みたいなものが私の場合は多くなったのですけども、やはり1つは西信達義務教育学校以外の3校区については、やはり全て通学バスが必要になってくるのではないかと。中学生は自転車で行けますけども、小学校の子どもさんを考えた場合は必ず通学バスの議論が出てくるのではないかと思います。

それと、全体的に時間が40年ということがかかり過ぎていると思いますので、これは議会としてもこの間議論は出ておりますけども、少なくとも全体の3分の2もしくは半分ぐらいでやり切るぐらいの覚悟でないと、時間がかかり過ぎるのではないかと思います。

もう一つ、3つの案全てにおいてそうなんですけども、やっていく過程の中で全部の校区の見直しというものをしっかりと行う必要があるのかなと、今この計画案というのは、少なくとも今の小学校区をベースに、その小学校に入ったらこの中学校ですよという基準で多分計画が作られていると思うのですが、小学校区の線引きもやっていく過程の中で、ここからはこうだという線引きの見直しも一旦作業としては要るのかなと思います。

○会長 どうもありがとうございました。議会の委員会での議論がありますので、この場ではどの案が賛成というふうな御意見はありませんが、今の御指摘は重要で、1つはバスの通学が必要になってくるのではないかと御意見。これはほかの皆さんからも出てまいりました。

計画が完成するまでの期間が今のところは令和40年という数字も出ていたりもしますが、もう少しスピード感を持ってということもあり得るのではないかと御意見だったかと思います。

次、よろしくお願いたします。

○H委員 私は、今のJ委員がおっしゃっていたように、線引きそのものが違うような気がして、けど、この3つの案で考えないとあかんので考えると、やはり支持が多いA案になるのだろうと思うのですが、A案で一番必要なのは、見直しをどの時期にどういうふうにするのかということきちんとすると、多分A2案の、R委員がおっしゃったように3校にするのかという議論もどこかできちんとしないといけないのかなと、それかもしかしたら4つ目を作る計画を15年後ぐらいに始めるぐらいの、どうなっているか分からないですよ、人口推移もまちも、今の区割りも区長会というのがあって、各区に分かれていますけど、これもこのままずっと40年後もこの形で泉南市がやっていくのかという話もあると思います。

だから僕は今のところA案ですけど、A案できちんと見直しをする時期を決めて、3校なのか4校なのかというのはある時期に確定させる。4校目にいくのも全く違うところに新設することも含めてできるような自由度を持っておくとか、そんな考え方ができたらいいのになと思います。

○会長 どうもありがとうございました。これは現時点での見通しでもってこの3案があるわけですけども、計画の進行に伴って随時の見直しも必要ではないかという御意見ですね。

○H委員 そうですね。せめて10年ごとぐらいに、40年計画を作ったから、この40年をこの計画に沿って全部を行っていかないとあかんといったら、例えば成り立つ前の今の予算だつてこの計画に出てきた予算がそのまま有効かどうかというのは、今の時点で多分、有効ではないのですよ。このことを幾ら議論したところで我々は10年ぐらいの見直しをきちんとやっていかないと多分こんなのは進められないと思います。

○会長 どうもありがとうございました。

次、お願いたします。

○E委員 全ての案で共通しているのは、敷地がもう決まっています、どこに中学校を建てるか、小中一貫校もしくは義務教育学校をどこに造るかというのはもう既に同じだということ。

ただ一つだけ違うのは4校か3校かということだけだと思っているので、それでずっと見ていきますと、やはりどう考えてもA2案が遅過ぎるとすごく思っています。信達小学校の敷地の中に信達中学校を造り始めるのは令和38年というものすごく遅い時期になるので。

ただずっと委員の皆さんの意見をお聞きしていると、R委員が最初におっしゃったみたいにA2案でスタートさせておけば、J委員もおっしゃいましたが、泉南中学校が元から新しい校舎ができていますので、そこに信達中学校の子どもたちが、言ったら生徒数が合えばいつでも子どもが泉南中学校に入れる状態ができていますということがあるので、A2案から新B案に移行はいつでもできるなと確かに思っています。

ただ、そうなってくると、今度はK委員がおっしゃったみたいに分離校の小学校で生活した子どもたちと、一貫校で生活した子どもたちが中学校で一緒になるという最大のデメリットが出てくるので非常に悩ましいところなのですが、いずれにせよどの案にしても遅過ぎるとするのはやはり皆さんと同じ意見です。スタートの時点でとにかく西信達義務教育学校を造るということは共通の理解で進めていながら、次の案はやはりどこかで修正を加えていく必要があるかと思っていて、僕の中では結論は出ません。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

引き続き、お願いします。

○C委員 Cです。よろしく申し上げます。私の場合はA案とA2案のメリット・デメリットがよく似ているかと思っています。メリットはA案、A2案とも4つの中学校区が温存されるという部分と、全て小中一貫校になるので泉南市で行われる教育サービスが均一できるという部分では、住民に対するサービスは一定均等化が図れるのかと思っています。

ただ信達中学校区だけが3小学校がばらばらになるという課題が残る中で、A案で行くと先ほどはN委員もおっしゃっていただいたのですが、砂川小学校だけが一丘中学校に行ってしまうということで、今までずっと信達中学校に通ってきていてという保護者の感情であったり住民の皆さんの気持ちというものもあるので、そのあたりの生活している人の気持ちも大事にしてあげながら、例えばそれをクリアするのであれば市主催のお別れ会とか開校式とかを盛大に行って、ここで一旦区切りをつけましょうみたいな感じで気持ちに寄り添った形で移行していくというのも1つの案かと思いました。

A2案で行くと児童生徒規模にもよると思うのですが、現段階では泉南中学校の敷地の中に小学校を新設するイメージでいくと、今の泉南中学校のグラウンドの状況を見ていると、やはり手狭感があるのかなということと、実際に体育科の授業を男女分けてするのであれば、中学校だけでも6つ入れ物が要ります、体育館も含めて。その中に小学校も入ってきたら小学校も6学年あると思うので、その辺のやりくりで時間割が相当工夫というか困難が付きまとうだろうなという部分で、後づけで小学校を設置するのであれば、例えば体育館の上に雨天でも運動ができるような施設を段取りするとかということの後づけでも対応できなくはないかと思うのですが、自分的にはA2案よりもA案の方がクリアする障

害としてはまだ少ないのかなと感じています。

新B案のメリットでいくと、市内の校区をコンパクトにまとめられるという部分で教育行政上は非常にメリット、効果があるのかと思っています。ただ新B案の場合は今のところ、市内最大規模の中学校と2番目の中学校が合体するという部分、そこに小学校3校が入ってくるという部分でいくと、先ほどのA2案と同じような意見になるのですが、統合する時期を例えば3小学校がよーいドンではなくて、例えば、鳴滝小学校とか雄信小学校が児童の減少が加速しているのであれば、少ないところから順番に統合していくみたいな形で段階的に可能な統合とか、時期をずらせばそういった問題はクリアできるのかと思いました。

以上です。

○会長 どうもありがとうございます。

次、よろしくをお願いします。

○B委員 重複して恐縮ですけども、デメリット、課題で見たときに、A2案は完了までの期間が長過ぎるように思います。新B案は、同じ中学校区内で小中一体型、分離型の小学校が並走するというのは具合が悪いかと思います。よってA案がいいと考えます。

先ほどから盛んに言われていますように、やはり1つ1つのスパンを早くスピード感を持ってする必要はあるかと思っています。バス通学の許容距離の見直し、文科省では4キロを超えたらバス通学がオーケー、泉南市は2.5キロにしているというのを聞いた記憶があるのですが、やはり現状、子どもたちの体力もかなり低下していますし、とてもその距離を歩くというのは大変厳しいもの、しかも低学年であれば相当な、通学のことでのプレッシャーになる可能性もあるので、もうちょっとバス通学許容距離を見直してもらえたらと思います。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。今の御意見の中では、A2案では計画完了までの期間が少し長いのではないかという御意見で、これはほかにも何人かありました。

それから、小学校・中学校の連携という観点からすると、小中施設一体型と分離型が同じ中学校区の中にあるということは、課題として考える必要があるだろうという話。

あとはバス通学のこと、これも幾人かから同じような趣旨の御意見が出ました。遠方から、特に小学校低学年の子のことを考えると遠方から通学する負担が大きくなる、バス通学の在り方を考える必要があるのではないかと御意見だったかと思っています。

これで一通り、委員の皆さんから御意見をいただいたという形になります。今前で整理をしていただいておりますが、今ちょっと字が小さいので見えませんが、ここにこうやって整理していただいた皆さんの御意見は事務局で整理をして、まとめた形で次の会議のときまでに委員の皆さんに配付をさせていただきたいと思っています。今日の会議は3つの案のどれが一番いいかということは議論しません。今日は論点を出していただくということが目的でしたので、次回以降、8月の審議会以降で具体的に3案のうちでどの案に絞っていくか。もちろんこの3案が原案そのままということにはならないかもしれませんが、どの案を基本にするかということは次回以降の会議で決めていきたいと思っています。

あと何か、委員の皆さんからありますでしょうか。もしなければ今日の会議はここまで

にさせていただきますと思います。

よろしいですか。では今日はここまでといたします。さっき言いましたように次回の審議会で、この3つの案の中から最終的にどの案がいいかということを決めていきます。最初に事務局から御説明がありましたけども、次回、令和4年8月23日午後2時から泉南市埋蔵文化財センター、講堂兼視聴覚室でまた開催いたします。コロナの影響で開催の形態が変わるとかということは今のところはないです。今日と同じような形で対面で開催いたします。

それでは今日は、これで泉南市教育問題審議会を閉会とさせていただきます。

長時間にわたってどうもありがとうございました。

15時35分閉会